

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 59-101651

(43)Date of publication of application : 12.06.1984

---

(51)Int.Cl.

G03F 7/08

---

(21)Application number : 57-211942

(71)Applicant : FUJI PHOTO FILM CO LTD

(22)Date of filing : 02.12.1982

(72)Inventor : SEKIYA TOSHIYUKI

---

## (54) PHOTSENSITIVE LITHOGRAPHIC PRINTING PLATE

### (57)Abstract:

**PURPOSE:** To improve the shelf stability of a photosensitive lithographic printing plate at high temp. and humidity by forming a layer of a high molecular compound contg. monomer units each having a sulfonic acid group as repeating units in the molecule as an undercoat for the photosensitive layer of the printing plate.

**CONSTITUTION:** A photosensitive layer is formed on a support to obtain a photosensitive lithographic printing plate. At this time, a layer of a high molecular compound contg. monomer units each having a sulfonic acid group as repeating units in the molecule is formed as an undercoat for the photosensitive layer. Said monomer units are units of p-styrenesulfonic acid, 2-acrylamido-2-methylpropane-sulfonic acid, ethylenesulfonic acid, etc. One or more kinds of such monomers are polymerized or copolymerized with other monomer. The resulting high molecular compound is dissolved in a suitable solvent and coated on the support. A photosensitive lithographic printing plate withstanding long-time storage especially at high temp. and humidity and causing no ground stain can be obtd.

⑬ 日本国特許庁 (JP)

① 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—101651

⑤ Int. Cl.<sup>3</sup>  
G 03 F 7/08

識別記号

庁内整理番号  
7124—2H

④ 公開 昭和59年(1984)6月12日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 8 頁)

⑭ 感光性平版印刷版

静岡県榛原郡吉田町川尻4000番  
地富士写真フイルム株式会社内  
⑦ 出 願 人 富士写真フイルム株式会社  
南足柄市中沼210番地

② 特 願 昭57—211942

② 出 願 昭57(1982)12月2日

⑦ 発 明 者 関屋俊之

明 細 書

1 発明の名称 感光性平版印刷版

2 特許請求の範囲

(1) 支持体上に感光層を設けてなる感光性平版印刷版において、該感光層の下塗層としてスルホン酸基を有するモノマー単位の少なくとも1種を繰り返し単位として分子中に含む高分子化合物からなる層が設けられていることを特徴とする感光性平版印刷版。

(2) 該モノマー単位がp-スチレンスルホン酸、2-アクリルアミド-2-メチルプロパンスルホン酸、エチレンスルホン酸及びこれらのアルカリ金属塩、アンモニウム塩、水溶性アミン塩からなる群から選ばれた少なくとも1つのモノマーから誘導されたものであることを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載の感光性平版印刷版。

(3) 該感光層が、ジアゾ化合物と有機高分子バインダーを含有することを特徴とする特許請求の範囲第2項に記載の感光性平版印刷版。

8 発明の詳細な説明

本発明は感光性平版印刷版に関するものである。更に詳細には現像性が改良され、地汚れの発生し難い感光性平版印刷版に関するものである。

地汚れない印刷物を得ることは、平版印刷版の具備すべき必須条件の一つである。地汚れは、特に製造後の貯蔵時間と共に増加する。製造直後に地汚れがなくても製造後ある時間がたてば地汚れを生ずるようになる。この傾向は特に高温高湿度下に貯蔵された場合に顕著である。従つて、長時間の保存、特に高温高湿度下での保存に耐え、地汚れの発生しない感光性平版印刷版が要望されている。

このような試みは従来から数多くなされている。例えば、陽極酸化アルミニウム板の表面にポリビニルホスホン酸からなる下塗り層を設け、その上にジアゾ化合物を含有する感光層を設けた感光性平版印刷版(西独国特許第1,621,478号)、アルミニウム支持体上にポリアクリル酸等を下塗りし、その上にジアゾ樹脂を設けた感光性平版印刷版(西独国特許第1,091,433号)、ポ

リアクリルアミドを下塗りし、その上に感光層を設けた感光性平版印刷版(米国特許第3,510,661号)、ジアソ化合物と有機高分子担体とを含有する感光層を有する感光性平版印刷版の経時安定性を改良し地汚れの発生を防止するために感光層へ高分子の有機酸を添加する方法(特開昭56-107238号)等が知られている。しかしいずれも十分な効果を発揮せずより一層の改良が望まれていた。また、特開昭57-5042号には、複数個の側鎖ジアソニウム基を有するジアソ樹脂と、複数個のスルホン基を有するスルホン化重合体(例えばスルホン化ポリウレタンやスルホン化ポリエステル)との組合せを含む感光性付加物が開示されている。しかしこの方法によれば地汚れ防止の効果が十分でないばかりか、これらの付加物を感光層そのものとして用いるため使用するスルホン化ポリウレタンあるいはスルホン化ポリエステル等の性質によつて感光性平版印刷版の性能が支配されてしまい、その使用範囲はごく限定されてしまう欠点があつた。

ホン酸、ノブテンノールスルホン酸、ノペンテンノールスルホン酸、ノヘキセンノールスルホン酸、2-フェニルエチルスルホン酸、ノメチル-2-フェニルエチルスルホン酸、3-クロロアリルスルホン酸、アリルスルホン酸、3-クロロ-2-ブテンスルホン酸、3-クロロメタアリルスルホン酸、メタアリルスルホン酸、3-メチル-2-ブテン-2-スルホン酸、3-フェニルアリルスルホン酸、3-フェニルメタアリルスルホン酸、2-ベンジルアリルスルホン酸、2-クロロ-4-スチレンスルホン酸、ビニルトエンスルホン酸、 $\alpha$ -メチルスチレンスルホン酸などのモノマーから誘導されるものがあげられる。これらの内でも本発明で特に好ましいモノマーは、p-スチレンスルホン酸、2-アクリルアミド-2-メチルプロパンスルホン酸、エチレンスルホン酸である。これらは適宜1つ又は2つ以上が選択され重合されるか、あるいは他のモノマーと共に重合される。共重合させる場合、相手のモノマーはこれらスルホン酸基を有するモノマーと

従つて、本発明の目的は支持体の表面に感光層を設けた感光性平版印刷版を画像露光し、現像して得た平版印刷版を用いて印刷した時、製造後長期間経時してから製版した平版印刷版においても、また高温高湿下に貯蔵した後製版した平版印刷版においても地汚れの発生がない下塗り層を設けた感光性平版印刷版を提供することである。

本発明者は鋭意研究を重ねた結果、下塗り層としてスルホン酸基を有するモノマー単位の少なくとも1種を繰返し単位として分子中に含む高分子化合物からなる層を設けることによつて、地汚れの発生し難い感光性平版印刷版を得ることができるとを見出した。

本発明に用いられるスルホン酸基を有するモノマー単位としては、例えばp-スチレンスルホン酸、2-アクリルアミド-2-メチルプロパンスルホン酸、エチレンスルホン酸、2-クロロエチレンスルホン酸、エチレンジスルホン酸、ノブペンノールスルホン酸、ノブペン-2-スルホン酸、2-メチルノブ、3-プロペンジスル

共重合可能であればどのようなモノマーでもよいが、特に好ましいものを挙げれば、例えばアルキルアクリレート類(メチルアクリレート、エチルアクリレート、n-プロピルアクリレート、イソプロピルアクリレート、n-ブチルアクリレート、イソブチルアクリレート、n-アミルアクリレート、イソアミルアクリレート、n-ヘキシルアクリレート、2-エチルヘキシルアクリレート、n-オクチルアクリレート、n-デシルアクリレート、2-ヒドロキシエチルアクリレートなど)、アルキルメタクリレート類(メチルメタクリレート、エチルメタクリレート、n-プロピルメタクリレート、イソプロピルメタクリレート、n-ブチルメタクリレート、イソブチルメタクリレート、n-アミルメタクリレート、2-エチルヘキシルメタクリレート、n-オクチルメタクリレート、n-デシルメタクリレート、2-ヒドロキシエチルメタクリレートなど)、スチレン類(スチレン、o-メチルスチレン、m-メチルスチレン、p-メチルスチレン、2,4-ジメチルスチレン、2,

5-ジメチルスチレン、3,4-ジメチルスチレン、3,5-ジメチルスチレン、2,4,5-トリメチルスチレン、2,4,6-トリメチルスチレン、o-エチルスチレン、o-sec-ブチルスチレン、o-tert-ブチルスチレン、p-フルオロスチレン、2,5-ジフルオロスチレン、o-クロロスチレン、m-クロロスチレン、p-クロロスチレン、2,4-ジクロロスチレン、2,5-ジクロロスチレン、2,6-ジクロロスチレン、3,4-ジクロロスチレン、p-ブモスチレン、p-シアノスチレンなど)、アクリロニトリル、メタクリロニトリル、アクリルアミド、N-sec-ブチルアクリルアミド、N-tert-ブチルアクリルアミド、N,N-ジブチルアクリルアミド、N-tert-ブチルメタクリルアミド、アクリル酸、メタクリル酸、酢酸ビニルなどが含まれる。

本発明に使用される高分子化合物の分子量範囲は、溶媒可溶性である限り制限はないが、一般的な目安を示せば約1,000~約1,000,000の範囲である。

溶解し、従来公知の方法によつて支持体上に塗布すればよい。塗布量は使用される高分子化合物により変化するので一概には決定しがたいが、大略0.0001~1g/m<sup>2</sup>が適当である。0.0001g/m<sup>2</sup>より少ないと地汚れの発生を抑えるという効果が低下し、他方1g/m<sup>2</sup>を超えると製版後の平版印刷版の耐刷性等に悪影響が出るようになる。従つて、好ましくは0.0005~0.2g/m<sup>2</sup>である。この下塗り塗布液中には適当な添加剤、例えば磷酸、亜磷酸、醋酸、低分子有機スルホン酸などのpH調節剤、サポンのような湿潤剤を加えてもよい。

本発明の下塗り層は、いろいろな支持体に塗ることができる。特に好ましい支持体は、英国特許第1,441,476号に記載されている硫酸浴で陽極酸化した後、磷酸浴で処理したアルミニウム板、米国特許第3,511,661号に記載されている磷酸浴で陽極酸化したアルミニウム板、特公昭51-20922号に記載されている硫酸浴で陽極酸化したアルミニウム板、特公昭46-

00号の範囲が適当であり、好ましくは2,000~100,000、最も好ましくは10,000~100,000の範囲である。

また、高分子化合物中に含まれるスルホン酸基を有するモノマー単位の量も広範囲で使用でき、約1~100モル%の範囲が適当であり、より好ましくは5~100モル%の範囲である。

本発明における高分子化合物は、従来公知の方法により合成することができ、たとえば溶液重合法により重合させ、所望により生成した重合物の酸基を中和して採取することもできる。この溶液重合法においては、通常原料のモノマーを溶解し、たとえばイソプロピルアルコールのごとき溶剤中で窒素雰囲気中で重合開始剤の存在下に重合させる。また通常のラテックスの合成と同様に原料のモノマーを界面活性剤で水中に乳化させておき、過硫酸カリウムなどの重合開始剤を用いて乳化重合させた水性分散物として得てもよく、もちろん、固形物として採取してもよい。

上述した高分子化合物は、これを適当な溶媒に

27481号に記載されているような電解グレイニングした後、陽極酸化を施したアルミニウム板等である。また、特公昭47-5125号に開示されているような陽極酸化処理し、次いで珪酸ソーダ水溶液処理を行つたアルミニウム板に、本発明の下塗り層を設けてもよい。

この下塗り層の上にいろいろな種類の感光層、例えば分子中の主鎖または側鎖に-CH=CHCO-基のような光架橋性基を有するポリエステル、ポリカーボネートまたはポリスルホネートのような感光性樹脂からなるもの、o-キノンジアジド化合物を含有するもの、アジド化合物と有機高分子担体を含有するもの、ジアゾ化合物と有機高分子バインダーを含有するもの、付加重合性不飽和化合物、光重合開始剤および有機高分子バインダーからなる光重合性感光層などを設けることにより、本発明の感光性平版印刷版が得られる。これらの内でもジアゾ化合物と有機高分子バインダーを含有する感光層の場合には、本発明による最も大きな効果を発揮する。このジアゾ化合物と有機高分

子バインダーを含む感光層の特に好ましいものには、米国特許第4,123,276号、特公昭57-43890号、特開昭56-4144号などに詳しく記されている。感光層は、乾燥後の被覆量で約0.1~5g/m<sup>2</sup>となるように設けられる。

本発明の感光性平版印刷版から平版印刷版を作成する製版方法は、従来より行なわれている方法をそのまま利用することができる。即ち、線画像および/または網点画像を有する透明原画を通して露光し、次いで現像液で処理して非画像部の感光層が除去される。露光時に使用される好適な光源としては、水銀灯、キセノンランプ、ケミカルランプ、メタルハライドランプ、ストロボなどが使用される。また現像液としては、感光層の組成に合わせて適当なものを使用すれば良く、例えばジアゾ化合物と有機高分子バインダーからなる感光層に対しては、米国特許第3,475,171号、同第3,669,660号、同第4,186,006号などに記されている水性アルカリ現像液が

ノ-2-アクリルアミド-2-メチルプロパンスルホン酸ナトリウム(50:30:20モル比)共重合体(平均分子量約60,000)

この下塗り層の上に下記組成③の溶液を塗布し乾燥させて~~0.5g/m<sup>2</sup>の被覆量の感光層を設け~~、感光性平版印刷版を得た。これを試料①とする。

#### 組成③

2-ヒドロキシエチルメタクリレート共重合体(I)(米国特許第4,123,276号明細書中の実施例1に記載されているもの。)………0.87g  
p-ジアゾジフェニルアミンとパラホルムアルデヒドの縮合物の2-メトキシ-4-ヒドロキシ-5-ベンゾイルベンゼンスルホン酸塩………0.1g  
・オイルブルー#6p3  
(オリエント化学工業㈱の

使用される。

以下本発明を実施例に基づいて詳細に説明する。実施例中のものは特に記されていない限り重量とする。

#### 実施例1

厚さ0.24mmのアルミニウム板を第三りん酸ナトリウムの7%水溶液(液温60℃)中に3分間浸漬して脱脂し、水洗した後、その表面にペリスを懸濁した水を流延しつつナイロン製ブラシで掠つて砂目立てをした。次いで水洗した後、珪酸ナトリウム(SiO<sub>2</sub>/Na<sub>2</sub>O=3.1~3.3(モル比))の5%水溶液(液温70℃)中に30~60秒間浸漬した、続いて水洗を十分行ない乾燥させた。

このアルミニウム板に下記組成Aの共重合体の1%水溶液をロールコーターによつて塗布し乾燥させて下塗り層を形成した。その乾燥後の塗布量は0.05g/m<sup>2</sup>であつた。

#### 組成A

メチルメタクリレート/エチルアクリレート

青色染料~~C-I-7435~~

①) ……………0.03g  
メタノール……………6g  
2-メトキシエタノール……………6g

感光層の乾燥塗布量は、2.0g/m<sup>2</sup>であつた。

比較のため下塗り層がないだけであつた試料①と同様の感光性平版印刷版を作成した。これを試料②とする。

これらの試料を40℃80%RHの条件に5日間放置し、露光後米国特許第4,123,276号明細書に記載の実施例1の条件と同様に製版処理した。得られた平版印刷版①および②を用いて印刷したところ、印刷版②によつて印刷された印刷物には地汚れが見られたのに対し、印刷版①によつて印刷された印刷物には、全く地汚れが見られなかつた。また耐刷性等他の印刷性能は①と②でほとんど差異が認められなかつた。

#### 実施例2~5

アルミニウム板を20%リン酸ソーダ水溶液に浸漬して脱脂し、電解エッチングを行なつた後、

特開昭59-101651(5)

硫酸溶液中で陽極酸化し、更にメタ珪酸ソーダ水溶液にて封孔処理した。

このアルミニウム板に下記組成④の感光液を乾燥重量で2g/m<sup>2</sup>となる様に塗布して感光層を形成させ感光性印刷版を得た。これを比較試料③とする。

組成④

N-(4-ヒドロキシフェニル)メタクリルアミド/2-ヒドロキシエチルメタクリレート/アクリロニトリル/メチルメタクリレート/メタクリル酸(=15:10:30:38:7モル比)共重合体(平均分子量60,000).....5.0g  
4-ジアゾジフェニルアミンとホルムアルデヒドの縮合物の六弗化磷酸塩.....0.5g  
亜リン酸.....0.05g  
ビクトリアピユアブルーBOH(保土ケ谷化学株式会社製).....0.1g  
2-メトキシエタノール.....100g  
この比較試料③に用いたアルミニウム支持体上

に下記組成B~Eの共重合体の1%溶液(溶媒は水-メタノール50重量%混合溶媒)を塗布、乾燥して下塗り層を形成した後に組成④の感光液を乾燥重量が2g/m<sup>2</sup>となる様に塗布して感光性平版印刷版を得た。これらを試料④~⑦とする。

第1表(共重合物の組成)

(モル%)

成 分	組成 B	組成 C	組成 D	組成 E
メチルメタクリレート	30	—	—	40
N-1-ブチルアクリルアミド	—	40	50	—
メチルアクリレート	40	40	30	40
p-スチレンスルホン酸ナトリウム	30	10	—	—
2-アクリルアミド-2-メチルプロパンスルホン酸ナトリウム	—	10	15	10
ビニルスルホン酸ナトリウム	—	—	5	—
メタクリル酸	—	—	—	10
平均分子量	80,000	40,000	20,000	60,000

下塗り層の乾燥塗布量はいずれも $0.005g/m^2$ であつた。これらの試料④～⑦及び比較試料③を実施例1と同様に $40^\circ C$  80RH%の条件に5日間放置し、露光、製版して得られた平版印刷版③～⑦を用いて印刷したところ、下塗り層のない比較試料③に比べて試料④～⑦は著しく地汚れを発生しにくく本発明の効果をじゅうぶんに発揮した。

#### 実施例6

機械的に砂目立てされた2S材アルミニウム板を $40^\circ C$ に保たれた2%の水酸化ナトリウム水溶液に1分間浸漬し表面の一部を腐蝕した。水洗後、硫酸クロム酸溶液に約1分間浸漬して純アルミニウムの表面を露呈した。 $30^\circ C$ に保たれた20%硫酸に浸漬し、直流電圧1.5V、電流密度 $3A/dm^2$ の条件下で2分間陽極酸化処理を行つた後、水洗、乾燥した。

次に実施例1と同様の下塗剤を塗布し、乾燥した。引き続き、下記組成の感光液を乾燥重量が $2g/m^2$ 位になるようロールコーターを用いて塗

実施例6に用いた下塗りをする前のアルミニウム支持体を $50^\circ C$ 、10%磷酸溶液に30秒間浸漬した後、再度水洗し、次に $70^\circ C$ の2%珪酸ナトリウム(JIS3号規格品)溶液に2分間浸漬し、水洗、加熱乾燥した。乾燥後、室温まで冷却したアルミニウム板に下記組成の下塗液をロールコーターを用いて塗布した。

p-メチルスチレン/エチルアクリレート/2-アクリルアミド-2-メチルプロパンスルホン酸カリウム(20:50:30モル比)共重合体(平均分子量50,000)	10g
純水	200g
メタノール	800g

この下塗り層の乾燥塗布量は $0.01g/m^2$ であつた。引続いて次の組成の感光液を塗布した。

p-フェニレンジエトキシアクリレートと等モルの1,4-β-ヒドロキシエトキシクロヘキサ	
---	--

統的に塗布を行ない乾燥した。

アセトン-ピロガロール樹脂のナフトキノン-1,2-ジアジド(2-スルホン酸エステル(合成法は米国特許第3,635,709号明細書実施例1の方法による))	2.5g
ヒタノール井3110(日立化成工業製クレゾール-ホルムアルデヒド樹脂)	4g

メチルエチルケトン	75g
シクロヘキサノン	60g

この感光性平版印刷版を透明ポジティブフィルムを通して露光し、次の組成を有する現像液で現像して得られた平版印刷版も、地汚れの発生しにくいすぐれたものであつた。

#### 現像液組成

JIS1号珪酸ソーダ	10g
メタ珪酸ソーダ	5g
純水	180ml

#### 実施例7

ンとの縮合で作られたポリエステル	
テル	115g
2-ベンゾイルメチレン-3-メチル-β-ナフトチアゾリン	5.7g
ジヘプテルフタレート	48g
4,4'-チオビス(3-メチル-6-ターシャリーブチルフェノール)	2.5g
フタロシアニンブルー(C.I. Pigment Blue #15)	25g
モノクロルベンゼン	1880g
エチレンジクロライド	1220g

乾燥は $100^\circ C$ 、2分間行つた。乾燥後の塗布重量は $1.2g/m^2$ であつた。

このプレートを露光後下記組成の現像液によつて現像した平版印刷版からは、地汚れの全くない印刷物が多数得られた。

4-ブチロラクトン	1000ml
グリセリン	100ml
アビエチン酸メチル	10ml

水酸ロジン (Staybelite 樹脂, Hercules Powder Co. 製)	1 g
エチレンオキサイドノニルフエニル エーテル	10 ml
蒸 留 水	20 ml
りん 酸 (85%)	25 ml
氷 酢 酸	25 ml

## 実施例 8

厚さ 0.30 のアルミニウム板をナイロンブラシと 400 メッシュのバミスの水懸濁液を用いその表面を砂目立てした後、よく水で洗浄した。10% 水酸化ナトリウムに 70 °C で 60 秒間浸漬してエッチングした後、流水で水洗後 20% 塩化 HNO<sub>3</sub> で中和洗浄、水洗した。これを  $V_A = 12.7$  V の条件下で正弦波の交番波形電流を用いて 1% 硝酸水溶液中で 160 クーロン /  $\text{dm}^2$  の電気量で電解粗面化処理を行つた。その表面粗さを測定したところ、0.6  $\mu$  (Ra 表示) であつた。ひきつづいて 30% の H<sub>2</sub>SO<sub>4</sub> 水溶液中に浸漬し 55 °C で 2 分間デスマットした後、20

% H<sub>2</sub>SO<sub>4</sub> 水溶液中、電流密度 2 A /  $\text{dm}^2$  に於いて厚さが 2.7 g /  $\text{m}^2$  になるように 2 分間陽極酸化処理した。その後 70 °C のケイ酸ソーダ 2.5% 水溶液に 1 分間浸漬後水洗乾燥した。

このアルミニウム板に実施例 1 で用いたのと同じ組成 A の共重合体を実施例 1 と同様な方法で乾燥塗布量が 0.005 g /  $\text{m}^2$  となるように塗布して下塗り層を形成した。

次に感光液 (I) を調製した。

## 感光液 (I)

ペンタエリスリトールテトラ アクリレート	200 g
ポリ (アリルメタクリレート / メタクリル酸) 共重合モル比 55 / 45 のコポリマー	300 g
2-トリクロロメチル-5- (p-n-ブトキシスチル) -1,3,4-オキジアゾール	24 g
4-ジアゾジフェニルアミンと ホルムアルデヒドの縮合物の	

2-メトキシ-4-ヒドロキ シ-5-ベンゾイルベンゼン スルホン酸塩	70 g
クリスタルバイオレットの p- トルエンスルホン酸塩	10 g
エチレングリコールモノメチル エーテル	2000 g
メチルアルコール	700 g
メチルエチルケトン	1300 g

尚、ポリ (アリルメタクリレート / メタクリル酸) は次の方法で合成した。攪拌棒および攪拌羽根、還流冷却器、滴下漏斗および温度計を設置した 3 l の 4 口フラスコに反応溶媒として 1.2-ジクロルエタン 1.68 l を入れ攪拌しながら 70 °C に加熱した。滴下漏斗にメタクリル酸アリル 100.8 g、メタクリル酸 7.6 g および重合開始剤として 2,2'-アゾビス (2,4-ジメチルバレロニトリル) 1.68 g を 0.44 l の 1,2-ジクロルエタンに溶解して入れ、2 時間でこの混合溶液をフラスコ中に攪

拌しながら滴下した。

滴下終了後さらに反応温度 70 °C で 5 時間攪拌し反応を完結した。加熱終了後パラメトキシフェノール 0.04 g を加え、反応溶液を 500 ml まで濃縮し、この濃縮液を 4 l のヘキサンに加えて沈澱させ、真空乾燥後 61 g (収率 56%) の共重合ポリマーを得た。このとき粘度は 30 °C MBLK 溶液で  $[\eta] = 0.068$  であつた。

感光液 (I) を伊過後、先の下塗り層を設けた基板の上に乾燥後の被覆量にして 2.5 g /  $\text{m}^2$  となるように塗布した。乾燥は 100 °C で 2 分間行つた。

次にポリビニルアルコール (粘度は 4% 水溶液 (20 °C)、ヘプラー法で 5.3 ± 0.5 cps、ケン化度 86.5 ~ 89.0 mol%、重合度 1000 以下) の 3% 水溶液を上記感光層の表面に乾燥後の重量にして 1.0 g /  $\text{m}^2$  となるように塗布した。これにより得られた感光性平版印刷版を試料 (6) とした。

比較のために下塗り層を設けない点だけが試料



⑧と異なり、他は全く試料⑧と同様にして感光性平版印刷版を作りこれを試料⑨とした。これらの試料⑧及び⑨を40°C 80%RHの雰囲気中10日間保存し、露光して下記組成の現像液で現像して得られた平版印刷版⑧と⑨を比較すると、平版印刷版⑧の方が平版印刷版⑨よりもはるかに地汚れが発生しにくかつた。

現像液

亜硫酸ナトリウム	5 g
ベンジルアルコール	30 g
炭酸ナトリウム	5 g
イソプロピルナフタレン	
スルホン酸ナトリウム	12 g
純水	1000 g

特許出願人 富士写真フイルム株式会社